

(社) 日本機械学会 研究発表申込書 (E-mail/FAX/郵送用)

本申込書使用順序

1. 発表者：研究発表申込み (E-mail/FAX または郵送) [著者→セッションオーガナイザー等の申込先]
2. 本 会：講演番号・日時通知 (郵送) [事務局→著者]
3. 発表者：原稿に添付 [上記講演番号が記入されている用紙のコピー] [著者→事務局]
(本会規定により、当講演原稿の著作権行使の諸手続きは本会に委任させていただきます。)

講演会名称		日本機械学会 2009 材料力学カンファレンス			発表希望部門：	
* 表 題 (副 題)	邦文	中性子回折によるSUS316配管の溶接継手の残留応力測定結果と数値解析結果の比較			特定セッション：X線，放射光，中性子による材料・材料強度評価 (Organized Session テーマをご記入下さい)	
	英文	Comparison of measured residual stress due to welding for butt-welded SUS316 pipe by neutron diffraction measurement and estimation by FEM analysis				
	会員資格	本会会員番号**	***氏名(講演者の頭に○印を付す)	勤務先(邦文略記)	氏名・勤務先の英文	年齢
* 著者名	正員	0314557	○大 厩 徹	INSS	Toru Oumaya (INSS)	32
			前川 晃	INSS	Akira Maekawa (INSS)	
			野田 満靖	INSS	Michiyasu Noda (INSS)	
			高橋 茂	INSS	Shigeru Takahashi (INSS)	
			芹澤 久	大阪大学	Hisashi Serizawa (Osaka Univ.)	
			村川 英一	大阪大学	Hidekazu Murakawa (Osaka Univ.)	

*プログラム、講演論文集目次は申込時の題目、著者名で作成されますのでご注意ください。

**CPD(Continuing Professional Development, 能力開発支援システム)ポイント付与のため正確にご記入願います。

***○印が付いていない場合は筆頭者を講演者と見なします。

<p>〔講演要旨〕</p> <p>本論文は、溶接残留応力の予測精度の向上を目的に実施したものであり、オーステナイト系ステンレス鋼配管突合せ溶接継手を対象に実施した、残留応力測定結果、解析による残留応力の予測、及び解析予測精度に係る検討結果について報告する。測定は中性子回折法及びひずみゲージ法により実施し、FEM解析は反復サブストラクチャ法及びAbaqusにより実施した。解析結果及び測定結果は、溶接部から長手方向に沿った残留応力の低減傾向や軸方向応力による配管板厚の曲げ状態など、この種の溶接継手に見られる特徴的な分布傾向を示した。</p>

講演者通信先	<p style="text-align: center;">〒919-1205 福井県三方郡美浜町佐田 64 号</p> <p style="text-align: center; font-size: 1.2em;">大 厩 徹 殿</p> <p style="text-align: center;">-----</p> <p style="text-align: center;">講演番号 OS1212</p>
	<p>電話 (0770) 37 - 9110 内</p> <p>FAX (0770) 37 - 2009</p> <p>E-mail: ooumaya@inss.co.jp</p>

このまま複写して使用いたしますので、詳しくていねいにお書きください (楷書でご記入ください)。

(原稿提出の際、本用紙コピー〔下欄講演番号記入済みのもの〕を添付願います。)

〔研究発表申込採用のお知らせ〕

貴講演申込みは採用となりました。講演番号および発表日は下記のとおりです。「講演原稿の書き方」に従って印刷用原稿を作成し、締切日までに提出してください。

〔詳細な講演時間は会誌に掲載されるプログラム、または本会ホームページ (<http://www.jsme.or.jp>) をご覧下さい。〕

講演番号	OS1212	講演日時	7 月 26 日 午前 ・ 午後	整理番号	
------	--------	------	--	------	--